

東京キリストの教会 QT シリーズ ペトロの手紙

第5週 2020年9月21日～9月27日

〈9月21日(月) 第2ペトロの手紙 1:1-3〉

イエス・キリストの僕であり、使徒であるシメオン・ペトロから、わたしたちの神と救い主イエス・キリストの義によって、わたしたちと同じ尊い信仰を受けた人たちへ。神とわたしたちの主イエスを知ることによって、恵みと平和が、あなたがたにますます豊かに与えられるように。

主イエスは、ご自分の持つ神の力によって、命と信心にかかわるすべてのものを、わたしたちに与えてくださいました。それは、わたしたちを御自身の栄光と力ある業とで召し出してくださった方を認識させることによるのです。

解説

恵みと平和、そして命と信心にかかわるすべてのものは、神様と主イエスを知ること、認識することによって与えられるとペトロは言っています。

この「知る」とは、知識として「知る」ということだけではなくて、人格的に体験的に「知る」ということです。イエス・キリストがどんなお方であるのかということ、体ごと奥深く全身で感じることです。

質問

1. 今までのクリスチャンライフで、どのようなイエス・キリストを知ってきましたか？書き出して、周りの兄弟姉妹と分かち合しましょう。
2. 神様は今日もイエス・キリストを知ることによって、恵みと平和、命と信心にかかわるすべてのものを与えてくださいます。今日このことを信じていますか？信じる時、あなたの心はどう変化しますか？

〈9月22日(火) 第2ペトロの手紙 1:4-8〉

この栄光と力ある業とによって、わたしたちは尊くすばらしい約束を与えられています。それは、あなたがたがこれらによって、情欲に染まったこの世の退廃を免れ、神の本性にあずからせていただくようになるためです。だから、あなたがたは、力を尽くして信仰には徳を、徳には知識を、知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には信心を、忍耐には信心を、信心には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。これらのものが備わり、ますます豊かになるならば、あなたがたは怠惰で実を結ばない者とはならず、わたしたちの主イエス・キリストを知るようになるでしょう。

解説

キリストを信じた者は、永遠の命が与えられるだけでなく、キリストと同じ性質に変えられると約束されています。だからペトロは、この約束にあずかるために「力を尽くして信仰には徳を、徳には知識を、知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には信心を、忍耐には信心を、信心には兄弟愛を、兄弟愛には愛を加えなさい。」と強く勧めています。

そうするとイエスを知る知識について実を結んでいくと言っています。主イエスを知ることにより、恵みと平安が祝福としてもたらされ、ますます豊かになっていきます。

質問

あなたが今日力を尽くして加えていきたいものはなんですか？

実践

変わることができるように、計画的なパターンを立てていきましょう。まず1週間トレーニングしていきましょう。

〈9月23日(水) 第2ペトロの手紙 1:9-11〉

これらを備えていない者は、視力を失っています。近くのものしか見えず、以前の罪が清められたことを忘れていきます。だから兄弟たち、召されていること、選ばれていることを確かなものとするように、いっそう努めなさい。これらのことを実践すれば、決して罪に陥りません。こうして、わたしたちの主、救い主イエス・キリストの永遠の御国に確かに入ることができるようになります。

解説

5-7節の8つのステップを踏んで成長していなければ、霊的視力を失っている、つまり見るべきものが見えないような状態になっている、とペトロは言います。何が見えないような状態になっているか？それは自分の以前の罪が清められたこと、罪が赦される以前、救われる前の状態がどんな状態であったかが見えない状態になっていると言います。

神様によって救いに選ばれたことを確かなものにするために、成長することに力を尽くしていくことをペトロは命令しています。そのステップの鍵は、主イエスを「知る」ことです。イエスを「知る」ことによって、命と信心とにかかわるすべてのものをお与えくださいます。

質問

1. 今日あなたはどのような状態にありますか？神様の前に静まり、祈り、吟味しましょう。
2. 選ばれていることを確かなものとするように、今日兄弟姉妹と吟味したことを分かち合いましょう。もし必要なら、励ましや助けを求めていきましょう。

〈9月24日(木) 第2ペトロの手紙 1: 12-15〉

従って、わたしはいつも、これらのことをあなたがたに思い出させたいのです。あなたがたは既に知っているし、授かった真理に基づいて生活しているのですが。わたしは、自分がこの体を仮の宿としている間、あなたがたにこれらのことを思い出させて、奮起させるべきだと考えています。わたしたちの主イエス・キリストが示してくださったように、自分がこの仮の宿を間もなく離れなければならないこと

を、わたしはよく承知しているからです。自分が世を去った後もあなたがたにこれらのことを絶えず思い出してもらうように、わたしは努めます。

解説

ペトロはこの聖句を通して間もなく世を去らなければならないことを感じていました。そのような状態の中でペトロが弟子たちに伝えたかったことは「思い出すこと」でした。弟子たちのことを「何も知らない者」ではなく「既に神様のことを知っており、真理に基づいた生活をしている。」と表現しています。今日私たちは「知らないから」また「真理に基づいた生活をしていないから」思い出し、奮い立つ必要があるのではなく、私たちは日々、キリストを思い出していく必要があることをペトロは伝えています。

またペトロはこの世を去った後も、弟子たちが「絶えず思い出すことができるように、努める」と言っています。これは自身の通訳者であるマルコを通して福音書が書かれ、自身の手紙を残し、いつでも弟子たちがキリストのことを思い起こすことができるようにするということでした。

質問

1. 今日あなたは神様のどのような性質・側面を思い起こす必要があるでしょうか？ また神様はあなたの人生にどのように働いてくださったでしょうか？ どんな罪で神様と人を傷つけてきたでしょうか？ 神様を思い出し改めて奮起しましょう。
2. ペトロは自身が世を去った後も、弟子たちが思い起こすことができるように努めました。弟子たちに対するどのような思いがペトロにはあったでしょうか？ 今日あなたは「兄弟姉妹がキリストを思い起こすこと」ができるように努めるとき、どのようなことができるでしょうか？

〈9月25日(金) 第2 ペトロの手紙 1: 16-18〉

わたしたちの主イエス・キリストの力に満ちた来臨を知らせるのに、わたしたちは巧みな作り話を用いたわけではありません。わたしたちは、キリストの威光を目撃したのです。荘厳な栄光の中から、「これはわたしの愛する子。わたしの心に適う者」というような声があって、主イエスは父である神から誉れと栄光をお受けになりました。わたしたちは、聖なる山にイエスといたとき、天から響いてきたこの声を聞いたのです。

解説

この聖句では偽教師が弟子に影響を与えていたことがわかります。「イエス・キリストの力に満ちた来臨を知らせるのに、私は巧みな作り話を用いたわけではありません」とあります。偽教師たちはイエス・キリストの奇跡をありのまま伝えるのではなく、「作り話」(元々の言葉では『物語』)として、本当の福音ではないものが伝わっていたことが考えられます。しかしペトロは「イエス・キリストの姿が変わる奇跡」<マタイ 17:1-13/マルコ 9:2-13/ルカ 9:28-36>を目撃していました。ペトロは手紙を通じて、「イエス・キリスト来臨されること」を「偽教師に惑わされている人々」、また「キリストの来臨を

信じていない人々」に対して伝えていきます。このことを伝えられることができるのは、実際にイエス・キリストの姿が変わる奇跡を目撃し、天からの声を直接聞いたペトロでした。

質問

- 1.ペトロは自身がみた神様の奇跡によって本物の福音を伝えることができました。今日あなたが福音を友人、家族、隣人に伝えるとき、どのような神様の奇跡があったことを伝えますか？
- 2.ペトロはキリストが「力に満ちた来臨」をすることを話しています。今日このことをあなたが確信するのであれば、あなたの生活はどのように変わるでしょうか？どのような罪をメタノイアしますか？具体的に考えてみましょう。

〈9月26日(土) 第2ペトロの手紙 1:19〉

こうして、わたしたちには、預言の言葉はいっそう確かなものとなっています。夜が明け、明けの明星があなたがたの心の中に昇るときまで、暗い所に輝くともし火として、どうかこの預言の言葉に留意しててください。

解説

19節はペトロの個人的な目撃証言から「預言の言葉」に手紙が展開されていきます。この預言の言葉は新改訳聖書では、「預言の御言葉」と訳されており、20節以降も「聖書の御言葉の解釈」に話が展開されていきます。

同時に興味深いことに、この19節は解釈が難しい箇所でもあると言われています。

「夜が明け、明けの明星」はキリストの来臨を示しているとされており、それまで、暗い所（世の中）に「輝くともし火として、預言の言葉に留意していく」という解釈が支持されています。

しかし、「夜が明け、明けの明星が心の中に昇る」という表現の解釈が難しいとされています。

上記のように、夜が明けること、明けの明星が来臨だとするのであれば、それは「心の中」で起きることなのか？という疑問がもたれるからです。

解釈が難しい聖句とされていますが、ペトロが伝えたいメッセージは、「預言の言葉に留意すること」を促しています。

質問

- 1.これまで解釈が難しいと感じた聖句、もしくは疑問を持った聖句はありますか？兄弟姉妹で分かち合い、意見交換をしてみましょう。
- 2.あなたが今日、留まる必要がある御言葉はなんでしょうか？暗いところにいると感じた時に、ともし火となる御言葉はどの聖句でしょうか？今日1日その聖句に集中して留まりましょう。

〈9月27日(日) 第2ペトロの手紙 1: 20-21〉

何よりもまず心得てほしいのは、聖書の預言は何一つ、自分勝手に解釈すべきではないということです。なぜなら、預言は、決して人間の意志に基づいて語られたのではなく、人々が聖霊に導かれて神からの言葉を語ったものだからです。

解説

ペトロは聖書の預言を自分勝手に解釈すべきではないことを伝えています。この呼びかけには偽教師たちが誤った聖書解釈を伝えていたことが背景にあります。旧約聖書を記した著者、預言者たちも含めて聖書は人によって執筆されたものです。しかし、聖書は決して人の思いによってかかれたものではなく「聖霊の導きによって、神様が語ったもの」です。聖霊の導きによってかかれた聖書の言葉を、霊的に受け取っていく必要があります。私たちは自分勝手に「人間的な解釈」をすることを注意しなければなりません。偽教師に語られた言葉であると同時に、今日私たちにも語られています。

私たちも「聖書の解釈によって偽教師のようになってしまう」ことに注意していきましょう。

質問

- 1.ペトロは正しくない教えを伝えている偽教師に対してどのような心と姿勢を持っているのでしょうか？ペトロのような心と姿勢を持っていくために、今日変えられる必要があることはなんのでしょうか？
- 2.聖書を解釈していく時に、気をつけていく必要があることはなんのでしょうか？知識的に、また感情的にどのような姿勢を持っていく必要があるのでしょうか？